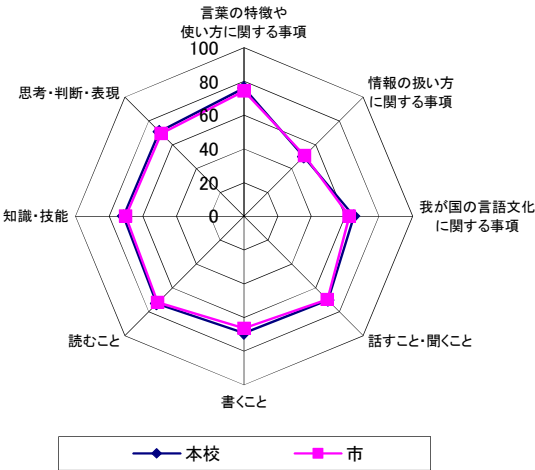


宇都宮市立豊郷北小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	76.1	74.3	74.8
	情報の扱い方に関する事項	50.0	50.9	48.4
	我が国の言語文化に関する事項	65.2	62.4	60.8
	話すこと・聞くこと	70.3	69.9	69.7
	書くこと	69.2	66.4	64.6
	読むこと	73.2	72.3	71.0
観点別	知識・技能	71.6	70.1	70.0
	思考・判断・表現	71.0	69.5	68.2

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

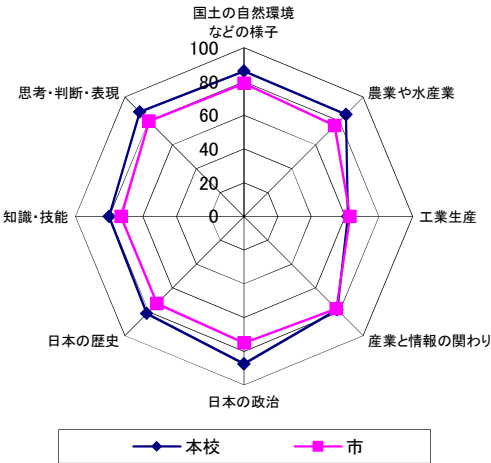
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や 使い方に関する事項	平均正答率は、市の平均より高い。 ○漢字については概ね読み書きすることができている。 ●熟語の成り立ちや文脈に沿った漢字についての問題の正答率が低く、漢字の意味についての理解が十分でない児童がいる。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・教科書で習う漢字のページなどを活用し、学習した漢字を、朝の学習や国語の授業で復習をする時間を設けたり、熟語の意味を正しく覚えらるよう宿題に熟語についての復習を取り入れる。
情報の扱い方 に関する事項	平均正答率は、市の平均よりやや低い。 ●目的に応じて、文章を簡単にまとめて書く力が十分ではない児童が多い。	・文章を書く際に、何について書くのか、書きたいことの中心は何かについて考えさせていく。
我が国の言語文化 に関する事項	平均正答率は、市の平均より高い。 ○計画的に話し合い、考えをまとめるための司会者の工夫などを捉える力が身に付いている。 ○話し手の意図や話し方の工夫を考えながら聞く力が身に付いている。 ●相手の立場や意図を明確にしながら計画的に話し合いを行うことについて理解が不十分な児童が多く見られる。	・相手の立場や意図を捉えられるよう、授業中、出された意見の共通点や相違点について考える場面を意図的に設定する。 ・意見を発表する際、自分の立場を明確にしたり、友達の意見と比較しながら聞くことで意見をつないだりできるようにしていく。
話すこと・聞くこと	平均正答率は、市の平均より高い。 ○指定された長さで文章を書くことや、自分の意見や理由を明確にして書く力は身に付いている。 ●目的に応じて、文章を簡単にまとめて書く力が十分とは言えない。	・より工夫して文章を書くことができるように根拠を明らかにするなど、説得力のある書き方などを意識させながら文章を書くようにしていく。
書くこと	平均正答率は、市の平均より高い。 ○表やグラフを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫して文章を書く力は身に付いている。 ●情報と情報との関係について理解して、目的に応じて文章を簡単に書くことが身に付いていない児童が多い。	・情報を基にそのねらいを読み取り、目的にあったポスターを書いたり、手紙を書いたりする活動を多く設定していく。
読むこと	平均正答率は、市の平均より高い。 ○説明文の内容を読み取る際、文章の論の進め方を捉える問題において、市の正答率より12ポイント上回っている。 ●文章を読んでまとめた感想を共有し、自分の考えを広げる力が身に付いていない児童が多い。	・物語文では、山場やキーワード等を丁寧に読み取っていくことで、場面や情景をイメージしやすいようにしていく。

宇都宮市立豊郷北小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	86.1	78.9	75.4
	農業や水産業	85.5	76.1	71.2
	工業生産	61.6	62.9	59.4
	産業と情報の関わり	78.3	77.6	59.7
	日本の政治	87.5	75.0	79.3
	日本の歴史	81.5	73.1	72.8
観点別	知識・技能	80.0	73.0	71.4
	思考・判断・表現	87.5	79.8	71.9

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

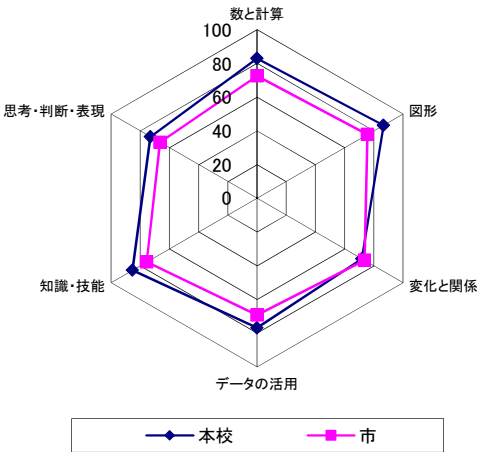
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境などの様子	平均正答率は、市の平均より高い。 ○日本の周辺の海洋名や中国の国旗と位置について、十分に理解している。 ●日本の地形の名称と位置をもとにして、地図を読み取る力が十分とはいえない。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・計画的に地図帳を活用して、様々な都市の位置や地形の特徴について確認する。
農業や水産業	平均正答率は、市の平均より高い。 ○米づくりがさかんな都道府県の理解をもとにして、米の生産量に関する資料を読み取り、白地図にまとめることができている。 ●複数の資料に着目し、水産業にかかる費用について判断する力が十分とはいえない。	・グラフや表などの資料から分かることを考えさせることにより、資料を読み取る力を身に付けさせていく。また、資料から分かることを言葉でまとめたり、考察したりする活動を積極的に取り入れ、表現する力を伸ばしていく。
工業生産	平均正答率は、市の平均よりやや低い。 ○自動車工場の作業工程について、十分に理解している。 ●日本の工業生産にしめる大工場と中小工場の割合や生産額についての理解が十分とはいえない。	・工業地帯についての復習を行ったり、地図帳や写真を使って、工業地帯の特徴を読み取らせたりしていく。
産業と情報の関わり	平均正答率は、市の平均よりやや高い。 ○資料に着目し、コンビニエンスストアにおけるポイントカード利点について、考えたことを表現する力が身に付いている。 ●インターネットを利用するときの注意点についての理解が十分とはいえない。	・5年生で学習した情報に関する学習内容についての復習を今後も継続して行う。
日本の政治	平均正答率は、市の平均より高い。 ○日本国憲法や国会、内閣、裁判所の仕組みなどについて、十分に理解している。	・国会、内閣、裁判所の役割や特徴、関係性について整理するなど、より理解が深まるように復習を行う。
日本の歴史	平均正答率は、市の平均より高い。 ○どの時代においても、市の平均を上回っており、歴史事項に関する関心の高さが学習の定着につながっている。	・歴史学習への理解をさらに深めるために、時代ごとに、学習した内容を比較したり関連付けたりしながら、歴史について多面的な見方ができるよう、学習を工夫する。

宇都宮市立豊郷北小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	82.9	72.6	73.1
	図形	86.7	75.7	74.7
	変化と関係	71.7	73.6	66.1
	データの活用	76.8	69.2	70.7
観点別	知識・技能	85.3	75.5	74.4
	思考・判断・表現	72.9	66.5	67.2

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。
(算数では本市独自の設問が含まれるため、参考値は全設問に対応した値ではない。)



★指導の工夫と改善

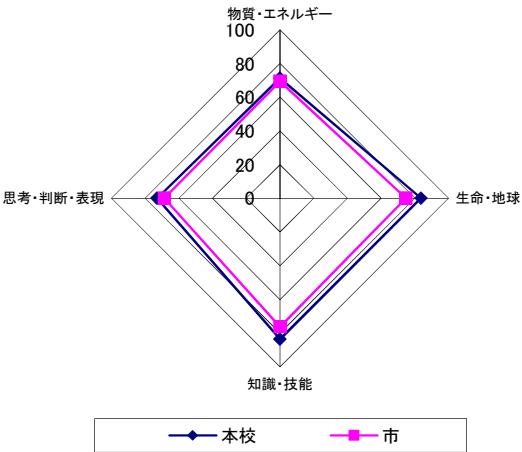
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、市の平均より高い。 ○小数どうし、分数どうしのかけ算やわり算の計算について計算の仕方をほとんどの児童が理解している。 ○図を見て、小数倍の文章問題を理解し、そこから式を考える力が十分身に付いている。 ●2つの文字を使って表された式について、文字の値を求める力が十分とはいえない。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・朝の学習、家庭学習、習熟度別学習で文字を使って表された式について、文字の値を求める問題に取り組み、習熟を図っていく。
図形	平均正答率は、市の平均より高い。 ○面積や体積を求める力が身に付いている児童が多い。 ○対称な図形についての性質を理解しており、対応する点を見付ける問題については市の正答率の30%より多く上回っている。 ●三角形の内角の和が180°であることの理解が十分とは言えない。	・朝の学習、家庭学習、習熟度別学習で、多角形の内角を活用した問題に取り組み、習熟を図っていく。
変化と関係	平均正答率は、市の平均を下回っている。 ○半分の割合が何%であるかについては多くの児童が理解している。 ●速さの単位の関係についての理解が十分ではない。	・単位量あたりの大きさ、速さについての問題を朝の学習や家庭学習で復習をし定着を図る。
データの活用	平均正答率は、市の平均より高い。 ○度数分布表の見方や、ドットプロットから最頻値を読み取り方について十分理解している。 ●円グラフから割合を読み取り、基準量から比較量を求める力が十分とはいえない。	・データの活用で扱う語彙の意味を理解し、計算によって値が求められるよう、繰り返し指導し定着を図る。 ・様々なグラフに触れる機会を設け、基準量と比較量、割合を求める問題に取り組み、習熟を図っていく。

宇都宮市立豊郷北小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	71.2	69.3	65.7
	生命・地球	83.6	74.7	77.8
観点別	知識・技能	83.5	76.2	76.4
	思考・判断・表現	72.9	68.7	68.6

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	平均正答率は、市の平均より高い。 ○「物のとけ方」で水よう液の重さを推測する力が身に付いている。 ○「ふりこのきまり」でふりこの1往復する時間の違いを理解している児童が多い。 ●「電流のはたらき」で、電磁石の極と方位磁針の指す向きに対する理解が十分とはいえない。	・課題を解決するためにどのような実験を行えばよいか、考えたり話し合ったりする活動を充実させるとともに、実験の結果から分かったことや考察について、自分の言葉でノートにまとめられるよう支援していく。
生命・地球	平均正答率は、市の平均より高い。 ○「動物のからだのつくりとはたらき」で、だ液のはたらきなど、性質について十分理解している。 ●「月と太陽」で三日月のような形が見えるときの太陽と地球の位置関係についての理解が十分とはいえない。	・図やモデル、映像教材を活用して視覚的に理解できるようにする。

宇都宮市立豊郷北小学校

学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
基本的学習習慣、学習における基礎基本の定着	学習のきまりについて職員で共通理解を図り、児童に指導すると共に、発問や指示、説明、板書等が明確になるよう心掛けて指導する。 朝の学習を活用して基礎基本の定着を図る。また、話し方・聞き方のポイントを掲示物で示し、児童が意識しながら話したり聞いたりできるようにする。	・6学年学力調査における算数では、知識・技能の平均正答率が85.3%と昨年度の平均正答率を大きく上回ると共に、市の平均正答率を約10ポイント上回った。国語の知識・技能においては同程度だった。 ・「先生や友だちの話を最後まで聞いていますか」の質問では、肯定的回答を示した児童の平均が約97%と、話を最後まで聞く習慣が身に付いていることが分かる。
主体的・対話的で深い学びを追究する授業づくり	授業において、その時間のめあてを確認すると共に、振り返りの時間を確保し、理解できたことやできるようになったこと、自分の課題等を児童が実感できるようにする。 互いの考えを交換し合う機会や場を確保し、自分の考えを広めたり深めたりできるようにする。	・「自分から進んで勉強をしていますか」の質問の肯定割合は68～90%と学年においてバラつきがある。 ・「グループなどでの話合いに自分から進んで参加していますか」の質問に対する肯定割合の平均は84.2%と、多くの児童が自分から進んで話合いに参加できていることが分かる。
家庭学習への取り組み	学年の発達段階に応じた家庭学習の時間を設定し、児童が進んで学習に取り組めるよう指導を工夫する。 年3回の家庭学習強化週間を設け、親子一緒にチェック表で振り返りを行うことで、家庭学習に取り組む態度を育んでいけるように指導、啓発する。	・「宿題はきちんとやり、期限までに提出している」の肯定的回答の平均は約95%である。 ・3～6学年の「家の人はあなたの学習に関心があり、必要な注意やアドバイスをしてくれる」の肯定割合はどの学年も80%を超えていた。また、「自分で計画を立てて、学習に取り組んでいる」の肯定割合の平均は、約74%だった。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方針

- ・学力調査の算数では、習熟度別指導で個に応じた指導を実施したことで、ドリルやスキルを使用して日頃から多くの問題を解いたことで基礎的な学習能力が定着し、結果につながったと考えられる。6学年の実践を他の学年でも参考にし、学年の実態に応じた効果的な指導ができるよう今後も指導方法を工夫していく。
- ・「自分から進んで勉強をしている」については学年にバラつきが見られたので、指導方法や支援の方法などを互いに共有すると共に、授業においてめあての確認をしっかりと行うことで、児童が主体的に学習できるよう指導を継続していく。
- ・家庭学習においては「計画的に学習する」ことにおいて肯定割合が低かったため、家庭学習カードに計画の項目を作るなどの工夫をすることで、児童の学習意欲を高め、計画的に進んで取り組む児童の育成に努めたい。